海外金融業界動向

“ＸＢＲＬ”

国内外を問わず、金融業界では契約書や帳票など様々な文書を作成、参照しながら業務が遂行されていますが、これらの文書をいかに電子化するかは長年の大きな課題でした。当初はイメージ処理とワークフロー技術を組合せたアプローチが一般化しましたが、文書に記載されている内容を別の業務で再利用するとなると改めて入力し直さなければならないという限界がありました。しかしながら、近年、XML（eXtensible Markup Language）をベースとして登場した XBRL（eXtensible Business Reporting Language）技術がこれらの課題を解決しつつあります。電子文書のみならずデータ管理の標準技術としても注目されているこの XBRL 技術が欧米金融業界でどのように応用されているか、その動向について概要をご紹介したいと思います。

単なるデータ形式の標準化から進化を遂げた拡張機能

XBRL は 1986 年にＩＳＯ（International Standard Organization）標準となったＳＧＭＬ（Standard Generalized Markup Language）をルーツとする「タグを付加したデータ形式表現」から派生したものです。文書形式の標準化として登場した SGML から Web ブラウザー上で文書を表現するための HTML（Hyper Text Markup Language）へと進化する一方で､そのサブセットとして生まれた XML はコンピュータ同士のデータ・インターフェースとしても浸透、活用されています。

特に、近年では利用者インターフェースの多くが Web 技術に依存するようになるにつれて、一世代前のオブジェクト指向に基づく Java 言語と融合することによってシステム構築方法に根本的な変化を及ぼしています。今や、いわゆるコンポーネント化の傾向と相まって、基盤技術の一角を構成する地位を確保しつつあると言えるでしょう。

XML ファミリー群の中での XBRL

今日では XML に基づいたデータ表現モデルはまさに百花繚乱の様相を呈しており、その中で XBRL は国際会計基準（International Accounting Standards）や米国会計基準（US GAAP）と密接に連携を図っています｡また、マーケット・データを表現する標準言語としての MDDL（Market Data Definition Language）や証券アナリストによる企業調査情報を表現する RIXML（Research Information eXchange Markup Language）などの XML ワーキング・グループでも支持されています。

このように、XBRL は財務会計データのみならず、金融・証券に関するデータなども表現したり、蓄積したり、抽出したりする上で、利用するシステム環境に制約されない効率的なデータ管理技術として、その評価が定まりつつあると言えるでしょう。

金融・証券分野で適用が進む XBRL

米国金融業界でも XBRL の適用を推進する幾つかのプロジェクトがあります。例えば、NASDAQ Stock Markets, Inc.は取引所会員企業の財務情報に関するデータベースを XBRL 技術に基づいて提供することによって投資家や証券アナリストが簡単に利用することを可能にしています。また、米国の証券取引委員会（SEC）が提供する企業情報開示システムとして有名な EDGAR（Electronic Data Gathering Analysis and Retrieval）においても”XBRL Express”として適用が始まっています。

一方、欧州においても XBRL は着実に定着しつつあります。具体的には、英国では 2005 年４月から企業情報を Web ベースないしシステム・インターフェースで提供する場合には XBRL に準拠することを制度化しました。単に企業情報のみならず、更に金融商品や市場などに関する情報も電子的に収集、分析できるようになれば、資産運用ビジネスにおいて重要な役割を担っている独立したアドバイザー（ＩＦＡ：Independent Financial Advisor）にとって、各種の相談業務がこれまでになく効率化されるものとして大いに期待されています。

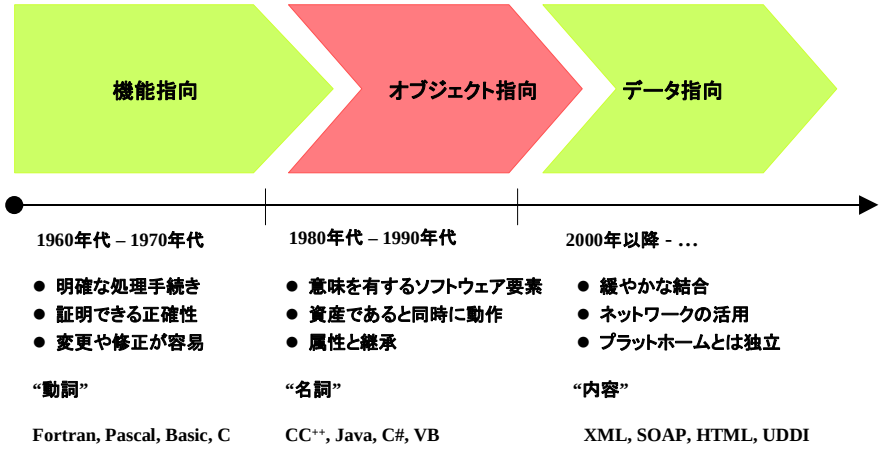
わが国における取り組みと対応

わが国でも国税庁が XBRL フォーマットによる税務報告の受付を始めたり、東京証券取引所も企業情報の開示ネットワークについて、やはり XBRL フォーマットでの提出を認めたりする取り組みが始まっています。今後、これらの取り組みが金融に係わる関係分野に外延的に拡がっていくことが、XBRL 適用の効果を発揮する上で非常に重要になるのではないかと思われます。その観点からポイントとなる事柄を幾つか列挙しておきます。

第一には、電子文書法の施行を契機として、わが国でも文書を媒体としたビジネス・コミュニケーションを効率化しようとする取り組みが始まっていますが、業種横断的なアプローチをより一層、積極的に推進する必要があります。第二には、金融機関を初めとして様々な取引先企業でも依然として情報リテラシーの向上にはまだまだ改善の余地が残されているのではないでしょうか。最後には、これらの取り組みによる成果を事務の生産性や情報の付加価値などの向上として確実なものとするためのシステム基盤の更改も求められるのではないでしょうか。

わが国の経済も一段とその明るさを確実としつつあるようです。しかしながら、その一方では経済のサービス化やソフト化の進展につれて、従来とは違った生産性の向上策や効率化の方策が求められています。情報の再利用や付加価値を高めるためにも、XBRL 適用分野を更に拡大する取り組みにおいても、引き続きわが国が先駆者として挑戦し続けることを願いたいものです。

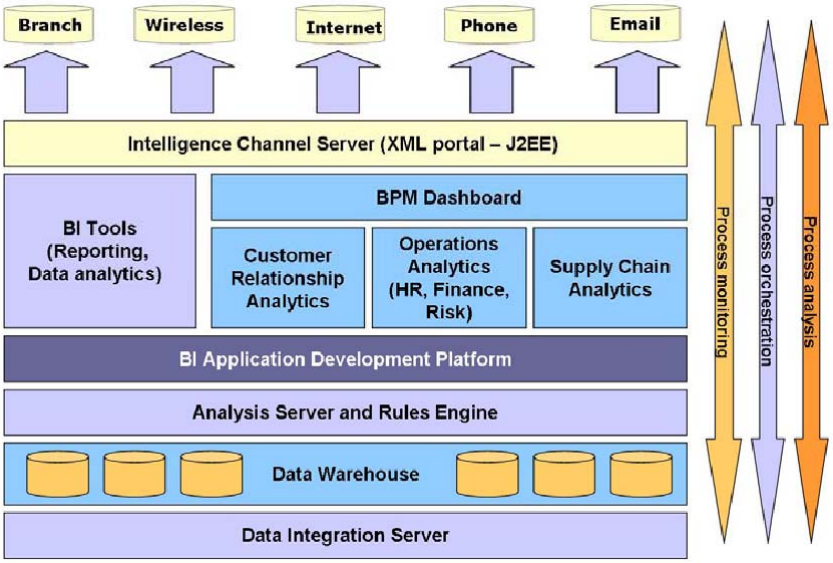
プログラミング技術のパラダイムシフト



Source:Celent Communications

CONFIDENTIAL
All Rights Reserved, Copyright(c)株式会社富士通総研, 2006

顧客情報（Business Intelligence）の流れ



Source:Datamonitor

CONFIDENTIAL
All Rights Reserved, Copyright(c)株式会社富士通総研, 2006

金融ｻｰﾋﾞｽ分野で適用が進むXML

Information
- News: XMLNews, NewsML, NML
- Market Data: MDDL, MDML
- Statements: XBRL (XFRML)
- Research: IRML, RIXML, FAML

Related Industries
- Banking: OFX, IFX
- Insurance: ACORD
- Mortgage: MISMO (XML-MP)
- Real Estate: RETML
- Philanthropy: OPX

Securities & Investments:
- Equities/FI: FIXML, SWIFTML, ISO15022 XML, STPML
- Derivatives: FpML, WeatherML
- Mutual Funds: Funds XML
- Indices: IndeXml

Proprietary/Internal:
- Reuters: MarketsML
- Merrill Lynch: X4ML
- Integral: FinML
- SunGard: NTM
- FinancialCAD: Fincad XML

Related Industry Functions:
- Commerce: ebXML, tpaML, cXML
- Payments: XMLPay
- Taxes: daliXML
- Billing: VRXML, Visa XML
- Treasury: TWIST

Source:Celent Communications

CONFIDENTIAL

All Rights Reserved, Copyright(c)株式会社富士通総研, 2006

資産運用アドバイザー（IFA）が2010年に向けて期待するXBRL技術

70～80%の資産運用アドバイザーがオンラインで相談業務

95%の資産運用ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰが
Web-Siteを保有

ただし、運用パフォーマンス
機能を有するSiteは10%

ﾄﾗﾝｻﾞｸｼｮﾝ処理やｽｲｯﾁﾝｸﾞ取引
ではｵﾝﾗｲﾝ未活用

業種・業態別に存在する
既存の標準方式の
改訂や追加への追随

各業種・業態別に標準化された
ポータル・サイトやソフトウェア
の活用が必須

金融商品や分析ソフトウェアをサポートするIT活用の必要性が増加
新たに登場するテクノロジーへの追随が迫られる

Source:Datamonitor

CONFIDENTIAL

All Rights Reserved, Copyright(c)株式会社富士通総研, 2006